

敬愛大学地域連携センター

年 次 報 告 書

2023(令和5)年度



教育の敬愛
- 創立 100 周年 -

敬愛大学・敬愛短期大学
地域連携センター

(目次)

はじめに	1
1. 沿革	2
2. 歴代管理職	3
3. 組織(2023年度)	3
4. 地域連携センターの位置づけ	4
5. 2023年度実績	6
5-1 生涯学習講座	6
5-2 ボランティア活動・地域連携活動	8
5-3 学外での発表	12
5-4 年次事業計画の達成度	13
6. 次年度の展望	15
 (資料)新聞等掲載記事	 17
(資料)事業報告一覧	19

はじめに

「地域連携センター」の発足からまる7年が経過しました。昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行され、この一年は社会全体でコロナ禍前の活動が徐々に戻りはじめました。マスクを外しての活動も見慣れたものになってきましたが、一方でインフルエンザが通年で流行するなど、まだ世の中ではコロナ「禍」の影響は残っているようです。このような中で当センターは、本学の地域連携・社会貢献の総合窓口として、「地域の伴走者」としての最前線に立つ努力は、地道に進めることができたと考えています。

2023年度を振り返りますと、産学官連携及び地域・社会貢献に関する取り組みでは、本学を含む「ちば産学官連携プラットフォーム」や「ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム」の活動の充実が挙げられます。特にプラットフォーム事業での協働により、文部科学省私立大学等改革総合支援事業タイプ3（地域社会への貢献：プラットフォーム型）に6年連続で選定していただけたことは、客観的に私たちのとりくみと近隣大学・千葉市との連携が進んでいることを証明したと言えるでしょう。

生涯学習講座については、JR稲毛駅前にサテライト・キャンパスとして生涯学習センターを開設して以来の厳しい状況が続き、年度初めには教室を縮小しての再スタートを切ることとなりました。

ボランティア活動については、千葉市や稲毛の街で様々な催事が復活し、学生が活躍する場を取り戻せたことはよかったのですが、その分事前の十分な調整の大切さを考えさせることとなりました。

停滞していた社会活動・地域連携活動が再開され、また佐倉キャンパスで学んできた敬愛短期大学の学生が稲毛に移ってきたことにより、当センターも短大の事業も引継ぐことになりました。より多くの敬愛大学・敬愛短期大学の学生・教職員が、「地域に学ぶ」「地域で学ぶ」ことができるよう、これまで繋いできたご縁をこれからも最大限に発揮してまいります。

引き続き、皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

2024年5月

敬愛大学・敬愛短期大学 地域連携センター
センター長 藤森 孝幸

1. 沿革

(生涯学習事業)

2005年9月	生涯学習講座開講
2016年4月	「敬愛大学生涯学習センター」をJR稲毛駅前に開設
2017年4月	地域連携センターの新設に伴い、所管部署を大学運営室から移管。
2018年4月	生涯学習センターを移転し、教室を拡張。
2023年4月	生涯学習センターを再度移転し、一教室に縮小。
2024年3月	敬愛大学八日市場高等学校(学校法人長戸路学園)通信制課程稲毛キャンパスを生涯学習センターに併設。

(ボランティア活動、地域連携事業)

2011年9月	東日本大震災を契機に、教員主導による「宮城ボランティア」が開始。
2015年3月	千葉市との間で「地域経済活性化に関する連携協定」が締結される。
2015年5月	学生支援室内に、ボランティアセンターが設置される。
2016年4月	「宮城ボランティア」の主管が、ボランティアセンターに移管。
2017年4月	地域連携センターの新設に伴い、所管部署を学生支援室から移管。
2021年8月	東京オリンピック・パラリンピックで学生・教職員が多数、ボランティア(フィールド・キャスト、シティ・キャスト)として参加。

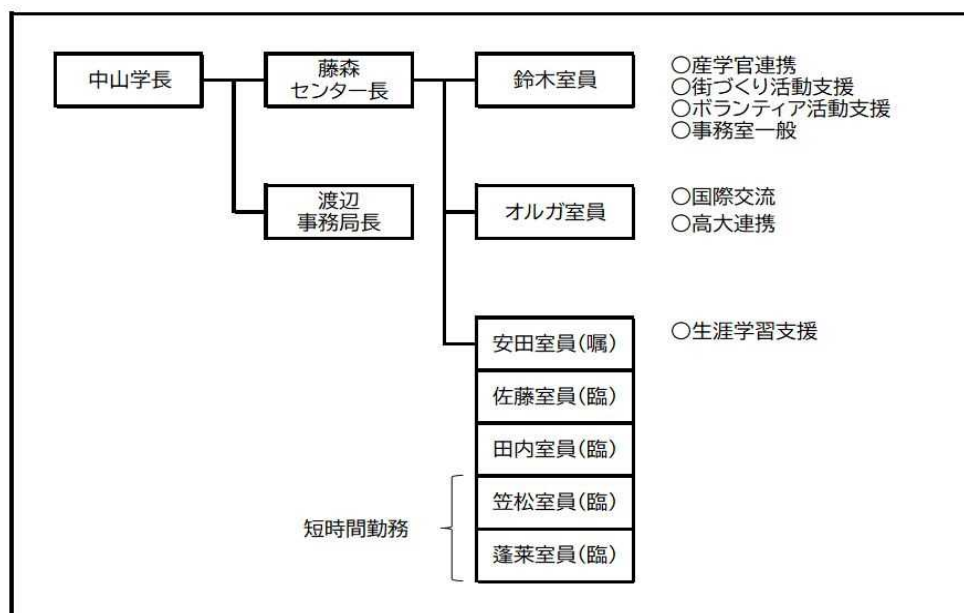
(地域連携センター事業)

2017年4月	地域連携センターが新設される。なお地域連携センターは、IR・広報室と同様、学長直属の部署として設置された。
2018年8月	「ちば産学官連携プラットフォーム」設立に伴い、副会長校を拝命。同プラットフォームでは、生涯学習連携事業部会の幹事校を拝命。
2019年2月	文部科学省私立大学等総合改革支援事業(タイプ5) 初選定
2021年12月	「ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム」に参画
2022年3月	大学基準協会の認証評価(第3期)で、「適合」の評価をいただく。 あわせて「長所・特色」の一つとして「学生・教員・地域経済と相互連携した地域の特性に根差した地域貢献活動」がとりあげられる。
2024年2月	文部科学省私立大学等総合改革支援事業(タイプ3:プラットフォーム型)に6年連続で選定される。
2024年4月	事務組織規程が改定され、地域連携センターとIR・広報室が、4月から大学事務局内部署に移管される。

2. 歴代管理職

2017年4月1日	地域連携センターの新設に伴い、 小阪新造（法人運営室員）がセンター長に、藤森孝幸（学生支援室主幹）が事務室長に就任。
2019年4月1日	小阪センター長がアドミッションセンター長に異動となり、中山幸夫副学長（現：大学・短大学長）がセンター長に就任。
2021年4月1日	藤森孝幸がセンター長に就任（事務室長兼務）。
2023年4月1日	藤森孝幸がセンター長に再任（事務室長兼務）。

3. 組織（2023年度）



センター長	藤森孝幸（地域連携センター事務室長を兼務）
室員	鈴木紀子
室員（嘱託職員）	安田勝也、パンコーヴァ・オルガ
室員（臨時職員）	佐藤真理子、田内治美、笠松宏、蓬萊美奈子

4. 地域連携センターの位置づけ

①地域連携センター規程(2017年4月1日施行)

◆第2条(目的)

センターは、敬愛大学の地域連携、地域貢献の総合窓口として、地域社会、行政、企業との連携を深め、地域の発展に寄与するとともに、本学の教育研究機能の充実を図ることを目的とする。

◆第3条(業務)

センターは、前条の目的を達成するために次の業務を行う。

- (1) 産学官連携及び地域・社会貢献に関する事項
- (2) 生涯学習・公開講座に関する事項
- (3) 地域行事・ボランティア活動等の情報統括に関する事項
- (4) 地域連携に関わる大学内の連絡調整および窓口業務に関する事項

②2023年度部門別事業計画

敬愛大学ビジョン2030に基づく「中期計画'24」および2023年度事業計画

中期計画'24		2023年度事業計画
目 標	計 画	
1. 学生と地域との連携、大学間連携、産学官連携を推進し、地域連携センターが学園の地域連携活動の総合窓口としての役割を果たす。	1-1 ボランティア活動に加え、サービスマーケティングの充実に注力し、学生が地域に学ぶ正課外活動の実践を目指す。	地域連携センター及び総合地域研究所が、それぞれの持ち味を活かしながら、引き続き「千葉(市)、稲毛」の特性に根ざした地域貢献事業を推進し、正課・正課外を問わず、全学的に学生・教員・地域経済との相互連携の推進する。
	1-2 「ちば産学官連携プラットフォーム」のスキームを活用し、参画大学・短期大学間のもとより、千葉市、市内産業界とも連携した取組を推進、他大学を含む産学官連携の充実を図る。	ちば産学官連携プラットフォーム事業で主担当を務める生涯学習等で引き続き事業を牽引し、改革総合支援事業(タイプ3)の継続的な選定に努める。また「ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム」「パラスポーツフェスタちば」等の取り組みを通じて、千葉県や千葉市、他大学等との連携を継続・充実させる。
	1-3 短大の稲毛キャンパス移転を機に、大学だけではなく学園全体の地域連携活動の窓口としての役割を認識し、幅広い社会貢献活動を展開する。	2024年春のキャンパス統合を円滑に行うため、大学・短大双方の事業の精査や継承を適切に行う。また系列校や大学・短大双方の教育連携校との協働を推進し、幅広い社会貢献活動を推進する。
2. 生涯学習講座やリカレント教育の充実により、生涯学習センターを生涯学習・リカレント教育の地域拠点として確立する。	2-1 「老後の学び」から「生涯にわたって学び続ける生き方」にシフトした教育コンテンツを提供するため、リカレント教育や履修証明プログラム等のメニュー開発を検討する。	感染症拡大防止に最大限配慮しながら、市民の幅広いニーズに応えられる生涯学習センター講座を展開する。特に語学講座や資格取得講座、教養講座の充実を図り、市民のウェルビーイングの達成に寄与する。ただし生涯学習センター事業は身の丈にあう規模への見直しを行うこととし、提供講座数を年間200講座、受講生数を年間のべ1000名を目標とする。

③2023年度組織目標

令和5年度は、「千葉敬愛学園ビジョン2030」に示されている「地域の伴走者」としての学内外からの期待を的確に捉え、与えられた環境の下、最善の取り組みをめざす。

1. 総合地域研究所と協力して、「千葉」という地域の特性に根ざした地域貢献事業を推進し、正課・正課外を問わず、全学的に学生・教員・地域経済との相互連携の循環を進める。
例えば、

- ・ちば産学官連携プラットフォーム事業への参画
(文部科学省私立大学等改革総合支援事業への選定を含む)
- ・ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム事業への参画
- ・震災伝承に視点をおいた学習活動に資する事業
- ・パラスポーツを通じた共生社会の実現に資する事業
- ・千葉県、千葉市との協働事業
(千葉市の「千葉開府900年」におけた取り組みを含む)

2. 今年度末の短大稲毛復帰を見据え、「大短一体」をより意識した事業を推進するとともに、系列高校や教育連携高校での社会貢献の実践にも積極的に協力する。

3. 生涯学習事業の持続可能性を意識した運営や講座設計に取り組み、「人生100年時代」によりふさわしい事業内容を実現するため、生涯学習センターの講座運営及び収支管理の厳格化に注力する。

4. 所管業務に遺漏なく業務品質の向上を図るため、室員一人ひとりが健康に留意しながら自己啓発に努める。

以上

5-1. 2023年度実績(生涯学習講座)

① コロナ禍を経ての対応

2019年度末から徐々に拡大した新型コロナウイルス感染症の拡大は、それまでの年間500講座、のべ受講者数2,500名の目標を大きく揺るがした。2023年5月8日から新型コロナウイルス感染症を5類に移行する方針が2022年度中に政府から示されたことを受け、生涯学習講座でもマスクの着用やアルコールによる手指消毒等を全て自由意志に任せることとした。しかし一度離れた受講者が戻るには至らず、前年度までに累積した収支の差を埋めるにはほど遠い現実を受け、生涯学習センターの縮小を決断し、2023年4月からは入居する「こみなと稲毛ビル」の5階に再移転し、1教室(定員15名)での展開を開始した。



2023年度は、教室を縮小するだけでなく、収益を上げやすい講座に絞り込むことを目標として、収支健全化をめざしたが、収支均衡の見通しをつけることができないため、2024年9月末を以て生涯学習センターを閉館する方針を2023年末までに提示、2024年1月の大学運営会議で承認を受けた。

その後、生徒募集で苦慮している系列校の敬愛大学八日市場高等学校(通信制課程)のサテライト教室として時間を区切って転貸を受けたいとの要望が学校法人長戸路学園からあったことを受け、閉館の方針を撤回すると共に、家主の了承を得て、特例として時間を区切った転貸を行うこととなり、この間は生涯学習センターとしての活用を継続することとなった(2024年3月の大学運営会議で承認)。

② 講座数、受講者数(受託運営講座を除く)

講座数	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
前期	提供	264	113	168
	開講	82	42	134
	開講率	31.1%	37.2%	79.8%
後期	提供	103	121	196
	開講	76	89	132
	開講率	73.8%	73.6%	67.3%
年間	提供	367	234	364
	開講	158	131	266
	開講率	43.1%	56.0%	73.1%

受講者数	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
前期	335	572	749	565
後期	766	694	714	349
年間	1,101	1,266	1,490	914

提供講座は150講座、開講した講座は103講座(開講率68.7%)となり、のべ受講生数は914名(前年度比61.3%)であった。

③ 収支

1教室展開になることで年間12,000千円の受講料収入を見込んでいたが、実際は13,659千円(予算比13.8%増収)となった。一方支出面では、固定費の軽減と講師料の圧縮を行った

(単位:千円)

受講者数	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
収入	5,109	10,725	18,608	13,659
支出	16,906	20,065	27,877	16,780
収支	▲11,797	▲9,340	▲9,269	▲3,121

結果、前年度までのような高額の出費超過はとめることができたが、それでも赤字が300万円を超える結果となった。

なお前述の長戸路学園への転貸により、2024年度は同学園から246万円を賃借費として受け取る覚書を締結した。同学園が教室を一定の時間占有することで、講座が開講できない(＝受講料収入が生まれない)分をある程度は補えるものと考えている。

④ 生涯学習センター(駅前センター)の周知定着

ミニコミ紙(船橋よみうり等)などの紙面で、講座を紹介していただく機会が増えた。また一般社団法人千葉市産業振興財団では、会員福利厚生サービスとして当センターの講座受講に助成金を出すなど、活用を後押ししていただいている(実際に本助成金を受けて受講された方がでた)。

2023年度も、千葉市生涯現役センターによる「シニアのための生涯学習フェスタ」でのプレゼンテーションの場をいただき、直接来場したシニア層に講座の魅力を伝える機会もいただくことができた。

さらに千葉市生涯学習センター(指定管理者:一般社団法人千葉市教育振興財団)から、「利用者懇談会委員」「市民自主企画選考委員」への就任依頼を受け、より深く相互の情報共有などを推進している。

⑤ ちば産学官連携プラットフォーム「ちば学リレー講座」

2018年8月に発足した「[ちば産学官連携プラットフォーム](#)」には、千葉市域の私立大学・短期大学12校が参加している。本学はこのプラットフォームで生涯学習連携事業部会の幹事校に任じられていることから、同プラットフォーム事業のひとつである「ちば学リレー講座」を本学生涯学習センターで開講、会場提供および申込受付を担当した。

2023年度は年間11講座が提供され、うち9講座を当生涯学習センターで開催した(ほか1回は千葉商工会議所、1回は千葉市生涯学習センターで開催)。オンデマンド受講者も含め、のべ149名が受講した。無料講座でもあり当センターの収入にはならないものの、結果として敬愛大学が生涯学習事業に熱心に取り組んでいることを市民の皆様にご覧いただく機会となっている。



⑥ 運営スタッフの勤務体制

2023年度のスタッフは、前年度から変更なく全員を継続雇用した。どの職員も誠実な勤務姿勢で業務に邁進していただき、受講生や講師からの信頼も厚い。

5-2. 2023年度実績(ボランティア活動、地域連携活動)

① 概要

本学の学生はボランティア活動への関心が高く、当センターが主催・紹介する活動のみならず、大学内外の諸団体における自主的な活動に、多くの学生が参加している。またボランティア活動だけでなく、地域の社会貢献活動にも熱心に参加する姿が見受けられ、それらの経験を日々の正課活動、正課外活動にも活かしているのは、高く評価したい。

感染症の影響が少しずつ落ち着き始めたことを受け、軒並み中止を余儀なくされていた主催事業や地域との協働事業が再開を始めたため、学生が「地域に学ぶ」取り組みが息を吹き返しつつある。

2023年度は、「稲毛せんげん通りまつり」や「稲毛あかり祭・夜灯」といった地域での大型イベントも4年ぶりに再開されたほか、千葉県・千葉市が推進する「パラスポーツを通じた共生社会の実現」の取り組みへの協働が大きく増えた。また本学が副会長校を務める「ちば産学官連携プラットフォーム」による大学連携協働事業や、千葉市による小学生向け模擬市長選挙などへの協力、高等学校の学習指導助言といった活動の定着もみられるようになった。

②主な事例

◆パラスポーツを通じた共生社会の実現への協力

千葉市が東京オリンピック・パラリンピックの競技開催都市となったのを機に一層推進している「パラスポーツの普及」に、本学も全面的に協力している。

「[パラスポーツフェスタちば2023](#)」(千葉県・千葉市共催)や、区内3大学が共催する「[第5回いなげボッチャカップ](#)」(稲毛区主催)をはじめとするボッチャ等の行事には、多くの学生が運営ボランティアや選手として参加してくれた。特にボッチャは「稲毛ゆかりのスポーツ」と言われていることもあり、今年度中に稲毛区や穴川コミュニティセンター、イオン稲毛店、高洲スポーツセンターでも大会や体験行事が催され、本学が全面的に協力した。



◆東京2020大会のレガシー創出活動

東京パラリンピックで「車いすフェンシング」競技のボランティアに参加した4大学(本学の他、植草学園大学、帝京平成大学、千葉大学)の学生・教職員が創作したパラスポーツ「ソフトパラフェンシング」は、本学で24名の学生が講習を受けた。講師は、[日本ソフトパラフェンシング協会](#)の学生理事でもある本学国際学部4年生(小枝



亜耶乃さん)が担当した。競技の背景や実技を学んだ学生たちは、2024年2月に開催した「震災学習スタディツアー」で宮城県の小学校で子どもたちの競技体験を通じた交流活動を行った。

◆千葉市模擬選挙事業への協力

千葉市選挙管理委員会が市内各小学校で実施している[模擬選挙事業](#)には本学と淑徳大学が協力しているが、本学は2023年度も、瑞穂小学校、高洲第四小学校および誉田東小学校の3小学校で事業に協力した。

本学学生は堂々とした姿勢で、自ら(の役)の施策や夢を熱く語り、参加してくれた小学生からの質問攻めにも対応してくれました。



◆その他の他大学との連携事業

(1)ちば産学官連携プラットフォーム事業

▶[千葉市こども若者市役所\(CCFC\)](#)

千葉市こども支援課の呼びかけで始まった事業で、高校生と大学生が集まり、千葉市からの課題解決に取り組んできた。本学からも学生有志が参加した。

▶ちば仕事研究塾

オンラインによる地元企業3社による業界研究会を開催した。本学学生もキャリアセンターを通じた周知に応じて参加した。

▶合同オープンキャンパス

プラットフォーム参画校の幅広い学問分野を活かして、高校生向けに個別相談会を開催。本学からはアドミッションセンターの黒田主幹が参加した。

▶共同FD・SD研修会

全7回のうち3回の研修で、本学教職員が講師を務めた。

- ・生成AIの活用について 飯野由美子教授(経済学部)
 - ・少子化時代の学生募集について 工藤龍雄室長(IR・広報室)
 - ・学生と地域の連携協働について 藤森孝幸センター長(地域連携センター)
- がそれぞれ講師を務めた。

▶[フードバンクちば](#)と連携した学生への食糧支援



ちば産学官連携プラットフォームが2021年度に実施した学生アンケートの結果、独居学生や留学生を中心に生活に不安を感じる学生もいることから、千葉市やフードバンクちばの協力を得て、学生への食糧支援がおおむね隔月で行われている。

2023年度は計5回、白米やレトルト・缶詰食品、調味料、飲料などの配布を、学生支援室の協力を得ながら実施した。

▶合同ボランティア活動

2023年6月に開催された「[YohaS](#)」(共催:一般社団法人千葉公園YohaS振興会、千葉市)には、本学を通じて参画校の学生にも参加を呼びかけ、千葉市域の大学全体で協力する形で盛り上げに関わった(本学から学生42名が参加した)。

(2) [ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム](#)

2023年度末の参加団体は、12企業・団体、5校(敬愛大学、千葉大学、千葉経済大学、神田外語大学、高校1校)、千葉市である。

小学生向けのワークショップ「西千葉子ども起業塾2023」「千葉市動物公園の魅力PR動画を作成しよう!」等の運営には、本学学生も参加した。



◆稲毛区、稲毛区内町内自治会活動への参加

・[稲毛区民まつり](#)

本学大学祭との同日開催として協力、藤森センター長がアドバイザーとして実行委員会に参加。

(4年ぶりの開催も、荒天により中止された。)

・区内大型イベントの参加

[稲毛せんげん通りまつり](#)(7月14・15日)、[稲毛あかり祭「夜灯」](#)(11月18・19日)とも、4年ぶりに再開された。せんげん通りまつりには学生11名が公募で参加、夜灯にも大学祭実行委員会の学生たちが多数参加した。

・町内自治会、商店街、コミュニティセンター事業への参加

穴川町会盆踊り、穴川商栄会感謝祭、稲毛東5丁目自治会盆踊りには多くの学生が参加した。また新たに小中台新向会自治会からも神輿巡行や盆踊りへの協力依頼を受けた。

◆[震災学習スタディツアー2023](#)

2020年度まで「宮城ボランティア」と呼んでいた宮城県でのフィールドワークは、2021年度の中止を経て「震災学習スタディツアー」として継続している。通算12回目となる2023年度は、『支縁～経験を伝承し、忘れない行動を』をテーマに、2月9日～11日の2泊3日で開催、学生24名と千葉敬愛高校生徒1名が参加した。



東日本大震災から12年11ヶ月の月命日を訪れた宮城で迎え、名取市と石巻市で時間をかけて現地踏査や小学生との交流を実施し、学びを深めた。

(別途報告書を公表: https://www.u-keiai.ac.jp/media/2023report_all.pdf)

◆千葉県夢チャレンジ体験スクール「キャリア教育しごと体験スクール」



学生スタッフとして本学学生9名が、中高生47名の指導に熱心にあたってくれた。特に夏季休業中に4日間連続(企業等での仕事体験2

日間および前後1日ずつの研修)での学生スタッフの活動はめざましいものがあり、千葉県教育委員会や参加中高生からの評価は、極めて高いものであった。事業への協力は今後も継続していくが、毎年よりよいメニューになるよう、県教委との協議も継続している。

◆第6回英語教師授業力ブラッシュアップセミナー

本学英語教育開発センターの協力の下、11月19日に「本気で英語教育改革を推進するために必要なこと」をテーマに、小・中学校、高等学校の英語教師等のリカレント教育事業として開催した。

講師には、一二三真先生(千葉市立花園小学校教諭)、青木真樹子先生(笠間市立笠間中学校教諭)、渡邊裕子先生(千葉県立千葉南高等学校教諭)および本学英語教育開発センターの先生方をお招きした。受講者数は39名、加えて本学学生が28名受講した。



小学校から高校までの全校種で本格的に始まった新学習指導要領の着実な推進に向け、各校種において、どのように授業をデザインし、具体的にどのような言語活動を展開していく必要があるか、指導と一体化した学習評価(パフォーマンス評価を含む)はどうあるべきかなどを中心に、指導・評価の両面で活用できる実践的な情報を提供させていただき、好評を博した。

◆県内高等学校との連携事業

2019年度に協定締結した市立稲毛高校とは、今年度も「総合的探求学習の時間」の指導助言に年間を通じて協力した。1年生の「総合的探求学習の時間」には、教育学部の市川洋子教授、経済学部の金珍淑准教授と星野智樹准教授、および藤森センター長を派遣し、他大学の教員と共にフィールドワークの成果発表に助言指導を行った。

また敬愛学園高校が1年生の「総合的探求学習の時間」で続けている「Inage Image」では、これまでPBLに



参画して下さる企業等を紹介してきたが、2023年度は敬愛大学もPBLに直接参加、パラスポーツの普及をテーマ(ミッション)に高校生の学びを支援した。

◆文部科学省私立大学等改革総合支援事業(タイプ3:プラットフォーム型)

2018年8月に発足した「[ちば産学官連携プラットフォーム](#)」では、本学は主に「生涯学習」「ボランティア」「防災講話」等の事業に関わった。本学としての主な取り組みは以下の通り。

① 生涯学習

「ちば学リレー講座」では、全11回のうち、本学からは長谷川頼子准教授が「[ちばの外国人留学生](#)」をテーマに講師をお務めいただいた。

また公民館等の求めに応じて、参画校教員の講師マッチングを実施、本学からは生涯学習センター講師数名を紹介した。

② 社会人の学び直し支援プログラム(ICTスキル講座)

本学からは大塚慎太郎准教授が「AI・データサイエンスへのいざない」をテーマに講師をお務めいただき、2022年4月からオンデマンド配信されている。

③ 戦略経営・事業創発マネジメントスクール

本学からは彌島康朗教授が「セカンドキャリア～社会課題×ビジネス～」をテーマに講師をお務めいただき、2023年7月からオンデマンド配信されている。

④ [文部科学省私立大学等総合改革支援事業\(タイプ3:プラットフォーム型\)](#)には、植草学園大・短大、神田外語大、敬愛大、淑徳大、千葉敬愛短大、千葉経済大・短大、千葉明德短大、帝京平成大の10校が共同で申請に取り組み、6年連続で選定された。本学がタイプ3選定により獲得した補助金額は、特別補助のみで800万円、経常費補助加算を含めると1,291万円であった。

⑤ 共同研究

千葉市民1000人にウェブアンケートを実施し、「千葉市の縮図を作る」ことでプラットフォームが今後取り組むべき事業を検討する基礎とするデータを収集した。本学からは矢口和宏教授と藤森センター長が研究員として参加した。

共同研究報告書は、[ちば産学官連携プラットフォームのホームページで公開](#)している。

5-3. 2023年度実績(国際平和や人権を考える講演活動等の開催)

2022年2月に勃発したロシアによるウクライナ侵攻により、本学卒業生のウクライナ人、パンコーヴァ・オルガさんをご家族と来日避難したことを受け、2022年4月から地域連携センターの嘱託職員として勤務している。

オルガ室員の業務として、外国人留学生への生活面での助言や入学相談業務、教員の授業補助業務、そして①自身の経験を記録すること、②その記録を元に学内外の若者に自身の経験を伝えることを課してきた。学内ではゼミを中心に各教室を積極に訪ね、また学外では表の通り精力的に講演活動を行い、誠実に業務を遂行した。

なお地域連携センターでは、一緒に来日されたご家族(ご子息、お母様)の生活支援にも細かく気を配りつつ、静穏な避難生活の実現に努めており、ご子息は日常生活では不便がないところまで日本語能力が向上した。



(佐原白楊高校での講演)

No.	依頼者	対象	参加者数	月	派遣期日
	派遣先				
1	千葉県青少年赤十字指導者協議会	県内学校校長・副校長・教頭	40名	5	2023/4/18
2	とけ 千葉県立土気高等学校	生徒有志	30名	6	2023/6/13
3	国際ソロプチミスト千葉	会員	100名	6	2023/6/28
4	千葉県高等学校教育研究会(国際教育研究部会)	千葉県高校の国際教育担当教員	30名	7	2023/7/7
5	さわら はくよう 千葉県立佐原白楊高等学校	1年	200名	9	2023/9/7
6	けいあいだいがく ようかいちば 敬愛大学八日市高等学校	1～3年	280名	9	2023/9/26
7	千葉県国際交流センター	市町村、市町村国際交流協会、民間団体	50名	8	2023/10/5
8	もばら しょうよう 千葉県立茂原樟陽高等学校	近隣高校を含むJRC活動担当生徒	20名	11	2023/11/30
9	きみつ 千葉県立君津高等学校	1～3年	900名	12	2023/12/19
10	まつお 千葉県立松尾高等学校	2・3年	20名	12	2023/12/26
11	のだ ちゅうおう 千葉県立野田中央高等学校	1～3年生	960名	1	2024/1/18

5-4. 2023 年度実績(学外での発表)

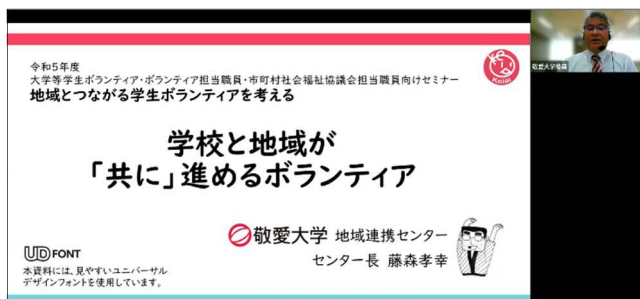
本学の地域連携の取り組みは学外からも注目されており、以下の広報紙およびセミナーで発表の機会をいただいた。

① 地域とつながり、地域で学ぶ! 地域に学ぶ! 敬愛大学の学生ボランティア活動

「福祉ちば」第197号(千葉県社会福祉協議会発行)

<http://www.chibakenshakyo.com/l6kouhoushi/fukushichiba/fukushicbiba197.pdf>

② 地域とつながる学生ボランティアを考える(千葉県社会福祉協議会主催:令和5年度大学等学生ボランティア・ボランティア担当職員・市町村社会福祉協議会担当職員向けセミナー) ※講師、コーディネーターとして



5-4. 2023年度実績(年次事業計画の達成度)

「中期計画'24」に基づく2023年度事業計画およびその達成状況を、年度末にとりまとめた。

2023年度事業計画	2023年度達成状況	達成度	中期計画'24の進捗状況
地域連携センター及び総合地域研究所が、それぞれの持ち味を活かしながら、引き続き「千葉(市)、稲毛」の特性に根ざした地域貢献事業を推進し、正課・正課外を問わず、全学的に学生・教員・地域経済との相互連携を推進する。	ポストコロナ期に入り、「千葉(市)や稲毛」にも賑わいが戻り、様々な事業で学生が街に学ぶ取組が進んだ。また総合地域研究所シンポジウムでは、本年が千葉県誕生150周年にあたることをテーマとしてとりあげた。 他方、「千葉県夢チャレンジ体験スクール」「千葉市・大学連絡会議」や「いなげボッチャカップ」「千葉市小学生模擬選挙」をはじめとする千葉県及び千葉市役所、稲毛区役所、さらには民間事業者との連携協働が一層深まり深まっており、地域の課題解決に資するための取組が推進された。	B	B
ちば産学官連携プラットフォーム事業で主担当を務める生涯学習等で引き続き事業を牽引し、改革総合支援事業(タイプ3)の継続的な選定に努める。また「ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム」「パラスポーツフェスタちば」等の取り組みを通じて、千葉県や千葉市、他大学等との連携を継続・充実させる。	ちば産学官連携プラットフォームの事業では、「ちば学リレー講座」のほか、「戦略経営・事業創発マネジメントスクール」「共同FD/SD」など幅広い分野で地域課題解決に資する活動を展開し、改革総合支援事業(タイプ3プラットフォーム型)の6年連続選定に繋げた。 また千葉県・千葉市が主催する「パラスポーツフェスタちば」、「ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム」等の様々な取り組みにも積極的に関与し、他大学等との連携も推進することができた。	B	B
2024年春のキャンパス統合を円滑に行うため、大学・短大双方の事業の精査や継承を適切に行う。また系列校や大学・短大双方の教育連携校との協働を推進し、幅広い社会貢献活動を推進する。	大学・短大双方の事業精査・継承の準備を適切に実施すると同時に、短大の改革総合支援事業申請も支援した。 系列校では短大のボランティアガイダンスや学園高校のInage Imageを受託し、稲毛高校をはじめ教育連携校との協働事業も継続的に実施された(このうちオルガ室員の講師派遣は11箇所)。	B	B
感染症拡大防止に最大限配慮しながら、市民の幅広いニーズに応えられる生涯学習センター講座を展開する。特に語学講座や資格取得講座、教養講座の充実を図り、市民のウェルビーイングの達成に寄与する。 ただし生涯学習センター事業は身の丈にあう規模への見直しを行うこととし、提供講座数を年間200講座、受講生数を年間のべ1000名を目標とする。	生涯学習事業は賃借教室のダウンサイズにより、提供講座数は202、受講者数はのべ1107名となった。とりわけ語学講座では9ヶ国語、資格講座では宅建と国内旅行取扱管理者の2講座を提供、国内旅行業務では受講者に複数名の合格者を輩出した。 コロナ禍を経て市民の学びの形態が多様化してきていることから、事業のありかたを見直すこととした。履修証明プログラムの設置は、検討の結果、実施しないことを決めた。	B	B

6. 次年度の展望

2024年度は、地域連携センターの組織目標および職責表を、以下の通り定めた。

なお事務組織規程の改正に伴い、地域連携センターは学長直属組織から、大学事務局の中に位置づけられることとなったため、小杉事務局長が示された「大学事務局の組織目標」も参照されたい。

① 組織目標

令和6年度は、「千葉敬愛学園ビジョン2030」に示されている「地域の伴走者」としての学内外からの期待を的確に捉え、与えられた環境の下、最善の取り組みをめざす。

1. 稲毛の街および千葉市に根ざした地域貢献事業を推進し、正課・正課を問わず、全学的に学生・教員・地域経済との相互連携の循環を推進する。例えば、
 - ・ちば産学官連携プラットフォーム事業
(文部科学省私立大学等改革総合支援事業への継続選定を含む)
 - ・ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム事業
 - ・パラスポーツを通じた共生社会の実現に資する事業
 - ・千葉県、千葉市との協働事業
(千葉市の「千葉開府900年」におけた取り組み等を含む)
 - ・学生及び教職員のボランティア活動
2. 系列高校や教育連携高校での社会貢献の実践を、積極的に推進する。
3. 生涯学習事業の持続可能性を意識した運営や講座設計に取り組み、近年話題になっている「ウェルビーイング」を意識した講座の企画を推進する。あわせて収支管理の適切化に注力する。
4. 所管業務に遺漏なく業務品質の向上を図るため、室員一人ひとりが健康に留意しながら自己啓発に努める。

(大学事務局の組織目標)

1. 「敬愛ビジョン2030」「中期計画'24」「2024年度事業計画」を理解し、教職協働によりその達成を目指す。
2. 情報共有に努め、各室の連携協力体制のもと、堅実な大学及び短大運営を図る。
3. 業務の簡素化、効率化を図り、超過勤務の削減に努めるとともに計画的な年休取得を図る。

③ 職責表

今春の人事異動で、鈴木紀子室員がキャリアセンターに主幹として異動したことから、後任を公募し、根本純代氏を嘱託職員として採用した。

事務局	管理職	室員	担当業務
小杉局長	藤森 センター長 (室長兼務) ○労務管理 ○予算管理 ○生涯学習センター 防火管理者	根本(嘱) オルガ(嘱) 安田(嘱) 佐藤(臨) 田内(臨) 笠松(臨) 蓮葉(臨)	○産学官連携関係 主務者:藤森、副務者:根本 ・千葉県、千葉市等との連携 ・高校等、地元企業等および教職員との連携 ・ちば産学官連携プラットフォーム ・ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム ・千葉県福祉系高校生人材育成コンソーシアム ・千葉県夢チャレンジ体験スクール ・文部科学省私立大学等総合改革支援事業の申請 ○街づくり活動支援関係 主務者:藤森 ・稲毛区役所との連携 ・稲毛の街との連携(町内自治会、避難所運営委員会、地域行事等) ・パラスポーツを通じた共生社会の実現に資する事業 ○ボランティア活動支援 主務者:オルガ ・学生のボランティア活動支援、紹介・幹事、指導助言 ・ボランティア関係団体(社会福祉協議会、ボランティア団体等)との連絡調整 ・人権・同和教育、平和教育事業 ・震災や災害の伝承教育事業 ○事務室一般関係 主務者:根本 ・予算執行管理、備品管理、経理管理等 ・情報資産管理 ○生涯学習支援関係 主務者:安田 ・「より魅力的な」生涯学習事業の運営 講座の企画、集客の強化 受講生データ管理(システムによる管理) 講座の運営

また「中期計画'24」に基づく2024年度の事業計画は、以下の通りである。

中期計画'24		2024年度事業計画
目 標	計 画	
Ⅵ. 地域連携・社会貢献		
1. 学生と地域との連携、大学間連携、産学官連携を推進し、地域連携センターが学園の地域連携活動の総合窓口としての役割を果たす。	1-1 ボランティア活動に加え、サービスマーケティングの充実に注力し、学生が地域に学ぶ正課外活動の実践を目指す。	○引き続き「千葉(市)、稲毛」の特性に根ざした地域貢献事業を推進し、正課・正課外を問わず、全学的に学生・教員・地域社会との相互連携を推進する。 ○特に大学生だけでなく、短大生や学園高校生も交えて、「地域で学ぶ、地域と学ぶ、地域を学ぶ」ことに必要な支援を行い、正課外活動の充実に寄与する。 ○地域の課題解決に資する事業は、年間15回を目標とする。
	1-2 「ちば産学官連携プラットフォーム」のスキームを活用し、参画大学・短期大学間はもとより、千葉市、市内産業界とも連携した取組を推進、他大学を含む産学官連携の充実を図る。	○ちば産学官連携プラットフォーム事業で主担当を務める生涯学習等を通じ、副会長校として事業全体の活性化に寄与し、改革総合支援事業(タイプ3)の7年連続の選定を目指す。 ○「ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム」や「千葉県福祉系高校生人材育成コンソーシアム(新設)」等を通じて、千葉県や千葉市、稲毛区をはじめとする産学官連携の継続・強化に取り組む。
	1-3 短大の稲毛キャンパス移転を機に、大学だけではなく学園全体の地域連携活動の窓口としての役割を認識し、幅広い社会貢献活動を展開する。	短期大学の社会貢献・地域連携事業の実績を、適切に融合・定着させる。 特に大学・短期大学双方で連携協定を締結する地方自治体や教育連携協定を締結する高校との連携状況を的確に把握し、定期的な意見交換と相互事業の充実に努める。
2. 生涯学習講座やリカレント教育の充実に伴い、生涯学習センターを生涯学習・リカレント教育の地域拠点として確立する。	2-1 「老後の学び」から「生涯にわたって学び続ける生き方」にシフトした教育コンテンツを提供するため、リカレント教育や履修証明プログラム等のメニュー開発を検討する。	○語学講座や資格取得講座、英語教師授業カブラッシュアップセミナー等を通じリカレント教育の充実の他、大学・短期大学の正課を活用した教養講座の充実に図り、生涯学習事業を通じた「市民のウェルビーイングの達成」に取り組む。 ○生涯学習センター(稲毛駅前)では、提供講座数を年間160講座、受講生数を年間延べ1000名を目標とする。

2024年度はこれらの事業計画を達成すべく、これまでの事業を本年報で総括するとともに、学内の他部署や他大学・短期大学、関係機関と連携して、より深みのある地域との連携、社会への貢献の充実を図り、「地域の伴走者」としての確たる実績を積み重ねていきたい。

また佐倉キャンパスでの地道な地域連携・社会貢献活動を積み重ねてきた千葉敬愛短期大学（本年4月から敬愛短期大学）の取り組み（主として総合子ども学研究所が担当してきた）の多くは、地域連携センターが受け継ぐこととなった。この機会に、稲毛の地で敬愛短期大学ならではの取り組みを芽吹かせるべく、準備を進めていきたい。

多年にわたり新型コロナウイルス感染症により失われた日常はこの1年間で取り戻され、まさに「ポスト・コロナ」期を迎えた。他方で多国間の戦闘や金融政策の変化等により、世の中の安心は保証されるには至っていない。「今ならでること」に向かいあい、「ウェルビーイング (well-being)」の達成に寄与できるよう努めたい。

以上

敬愛大学の学生ボランティア活動

地域とつながり、地域で学ぶ！ 地域に学ぶ！

千葉市稲毛区にある敬愛大学は2017(平成29)年、「地域連携センター」を設立し、地域連携活動や生涯学習活動とともに、ボランティア活動を推進してきました。学生たちは地域とのつながりを活かしながら、教育支援や地域活性化支援、ハラスポート支援など幅広い分野のボランティア活動に活躍しています。



「地域の伴走者」を目指し、地域とのつながりを重視

敬愛大学は、平成29年に大学と地域をつなぐ窓口として「地域連携センター」を設立しました。ボランティア活動を推進し、地域に学ぶ。安心して活動に取り組めるように積極的に支援するボランティアセンターの役割も担っています。

「学生にボランティア活動を始める前には、どのような団体で、どのような活動なのか、団体の方にお話をいただき、しっかりと話を聞くことにしています。」「ボランティア活動をやったと学生に思ってもらえることが大事なので、自信を持って参加できる活動だけを紹介するように心がけています」と、センター長の藤森幸幸さんは話します。

地域で学び、地域を盛り上げる「地域活性化ボランティア」

大学として特に力を入れているのは、「地域活性化ボランティア」です。自治体や町内自治会、商店街などの行事やイベントに準備段階から参加し、地域住民と協力しながら活動しています。とくに、稲毛地区の活性化のために取り組んでいます。

地域との関係づくりについて、藤森センター長は、「民生委員の研修会に大学の教員をお話ししたことなどをきっかけに、地域の様々な活動に専らで参加するようになりました。さらに、こちらから地元のお祭りの実行委員会に呼び込んだこともありました。お互い楽しみながら、良い関係を築くことができ、学生たちのことも考えて活動してもらっています」と話していました。

その他、「教育の発展」と言われる強みを活かして「教育支援ボランティア」(東日本大震災の被災地に学ぶ「災害復興支援ボランティア」や、「大学間連携ボランティア」など)、学生は、地域連携センターの支援を受けて、様々な分野のボランティア活動に取り組んでいます。

子どもの学びのために学生が企画する本格的なワークショップ

部活動の1つである、教育ボランティア「iris(アイリス)」は、子どもの学力を育成し、遊び場を提供するとともに、地域活性化を目指して学生自身の手で設立されました。市内美浜区にあるショッピングセンターの空き店舗を無料で借り受け、子ども向けワークショップ毎月1回開催しています。

注目すべきは、開催場所の確保から毎回の企画立案、準備、当日の運営に至るまで、すべて大学教員等の手を借りず、学生自らが行っているということです。例えば身近な材料でプラネタリウムを作成して星や星座について学んだり、実験やゲームを通して静電気について学んだりする楽しみも実用性の高いワークショップが大変評判で、友だちからの口コミで参加してくる子どもたちも多くなっています。様々な団体や自治体からも「うちでも開催してほしい」という依頼が、受けきれないほど寄せられています。

ボランティア活動を通して「自己有用感」を高める!

藤森センター長が学生のボランティア活動に期待することは、「自己有用感を高めること」といいます。「人から頼りにされたり、人の役に立っていると感じることがボランティア活動の醍醐味だと考えていますので、一人ひとりの学生が自己有用感を得られるように、サポートしています」。

ボランティア活動に「やらされ感」などのマイナスイメージを持つ学生もいますが、その活動の醍醐味を知っているからこそ、藤森センター長は「地域で学んでいて」と学生の育中を押し送り出しています。ボランティア活動の一端を踏み出した学生は、地域の人たちと交流するなかで、教室では学ぶことができないたくさんのことを学んでいます。

敬愛大学でボランティア活動をしている2団体の代表にもお話を伺いました。

ボランティアサークル「Love and Action」
市田 ゆり恵さん (国際学部3年)

—Love and Actionでは、どのようなボランティア活動を行っていますか。
—「抱負や、(敬愛大学)チームとしてポッチャの大会に出場したり、千葉市外で古着等を海外送出国に送る活動など様々なボランティアを行っています」。

—どんなところにやりがいを感じていますか。
—「たくさんのお金を運ぶこと(これくらいの数の古着がこれくらいのお金になる)」という新たな気づきがあって、面白いと思います。あとは、お手伝いをして喜んでもらえることややっぱり嬉しいですね」。

—コロナ禍ではどのように活動されていますか。
—自分サークルに入ったときはコロナ禍の真っ只中で、活動もほとんどできませんでした。最近になってようやくできることが増え、今は今頃の活動を再開している段階です。古着等を海外送出国に送る活動はコロナ前から先輩が続けていた活動で、先輩が楽しんでいたのが私たちにも伝わり、一緒に活動できるようになりました」。



たくさんのお金を運ぶ活動(古着)のやりがい

東京パリンピック競技ボランティア
小枝 聖那乃さん (国際学部4年)

—ソフトパリンピックについて教えてください。
—車いすフェンシング競技をベースに、障害の有無や年齢に限らず誰でも楽しめるスポーツを目指して作ったのが、ソフトパリンピックです。競技に使用する剣やマウスなども手作りすることができ、評定などの面でできるというの自信があります」。

—ソフトパリンピックを作ったきっかけは何ですか。
—2021年に開催された東京パリンピックで、千葉大学、南房総大学、敬愛大学、千葉大学短期大学部の4大学の学生が車いすフェンシングの競技ボランティアに参加したことがきっかけです。東京オリパラでは「復興」というテーマがありましたが、「自分たちはパリンピックのボランティアで終わってしまい、何も残してない」という思いから、ソフトパリンピックを作っていました」。

—競技団体のつくりかたは、ベースとなるルールはありますが、そこからは自分たちで広めてほしいと思っています。「普及



ソフトパリンピック

CHIBA UNIVERSITY PRESS 敬愛大学

ユニバーシティプレス

大学生記者が編集

広がる可能性 学生ボランティア



ボランティアの活動で、小学生から中学生まで、幅広い世代の子どもたちに笑顔と感謝を届ける。ボランティアの活動で、小学生から中学生まで、幅広い世代の子どもたちに笑顔と感謝を届ける。

笑顔、感謝 新たな縁も

学生が主体となって参加するボランティアには一体どのような意味があるのだろうか。学生がボランティアをする理由をたどって実際にボランティアに参加した学生や、ボランティア活動を支援している人々取材し学生目線でまとめた。

周囲の支え生かし挑戦を



敬愛大学地域連携センター長

ボランティアは、東日本大震災の被災地での活動がきっかけで、敬愛大学では現在多くの学生がボランティア活動に参加している。その活動の中心を担っているのは、同大学地域連携センター長の藤森孝幸さん。藤森さんは、ボランティア活動を通じて、学生と社会とのつながりを築き、社会貢献を促している。藤森さんは、ボランティア活動を通じて、学生と社会とのつながりを築き、社会貢献を促している。

Case 3 放課後子ども教室運営手伝う 青木志乃さん

小学3年生の放課後子ども教室で、ボランティアとして活動している青木志乃さん。放課後子ども教室では、子どもたちが安心して過ごすための活動が行われており、青木さんは、子どもたちの成長を支援するために活動している。青木さんは、放課後子ども教室で、子どもたちの成長を支援するために活動している。

やりがい感じ活動11年 将来見据え、大学生も従事

放課後子ども教室で活動している青木志乃さん。放課後子ども教室では、子どもたちが安心して過ごすための活動が行われており、青木さんは、子どもたちの成長を支援するために活動している。青木さんは、放課後子ども教室で、子どもたちの成長を支援するために活動している。

Case 2 バラリンピックで選手を支援 小枝亜耶乃さん



ソフトバレーボールの試合で、選手をサポートしている小枝亜耶乃さん。

ソフトバレーボールの試合で、選手をサポートしている小枝亜耶乃さん。小枝さんは、ソフトバレーボールの試合で、選手をサポートするために活動している。小枝さんは、ソフトバレーボールの試合で、選手をサポートするために活動している。

国際交流経験、原動力に 簡易フェンシング考案、普及へ

ソフトバレーボールの試合で、選手をサポートしている小枝亜耶乃さん。小枝さんは、ソフトバレーボールの試合で、選手をサポートするために活動している。小枝さんは、ソフトバレーボールの試合で、選手をサポートするために活動している。

千葉日報(2024年11月1日付)

名取・関上小中

被災者支援続ける千葉の大学生 新パラスポーツで交流

東日本大震災が起きた2011年から名取市で被災者支援などを行っている敬愛大学(千葉市)の学生ら27人が、9日、関上小中を訪れ、新しいパラスポーツ「ソフトバレーボール」を児童たちに伝えた。



ソフトバレーボールを体験する児童たち

たいと笑顔を見せた。敬愛大4年大野美咲さん(22)は「今春に小学校の先生に伝えた」と話した。生になるので、震災の被災地で見聞きたことを児童たちに伝えた。

河北新報(2024年2月11日付)

地域連携センター 事業実績(2023年度)

(別表)

【主催事業】

カテゴリー	事業名	時期	関係先	本学の参加状況
主催事業	震災学習スタディツアー2023	2/9～11	名取市立関上小中学校、震災遺構・石巻市立大川小学校、同・門脇小学校	学生24名、千葉敬愛高校生1名、引率2名
	第6回英語教師授業力 ブラッシュアップセミナー	11/26	一ニ三真教諭(千葉市立花園小学校)、青木真樹子教諭(笠間市立笠間中学校)、渡邊裕子教諭(千葉県立千葉南高校) ※パネルディスカッションには、卒業生の山口拓人教諭(千葉県立鎌ヶ谷高校)も参加。	学生28名、一般39名
共催・協働事業	YohaS 2023 "RAIN or SHINE" ★ちば産学官連携プラットフォーム協働事業	6/7～12 本祭は9・10	千葉公園YohaS振興会、千葉市、ちば産学官連携プラットフォーム	(ボランティア)学生42名
	千葉県夢チャレンジ体験スクール 「キャリア教育しごと体験スクール」	8/7～10	千葉県教育庁生涯学習課	(運営支援員)学生9名
	パラスポーツフェスタちば2023	9/2	千葉県環境生活部生涯スポーツ振興課、 千葉市生活文化スポーツ部スポーツ振興課 ほか	(学生実行委員)学生2名、 (ボランティア)学生11名
	パラスポーツ講習会	2/7	日本ソフトバラフェンシング協会	(受講)学生25名、教員1名
	第30回千葉市スポーツレクリエーション祭(ポッチャの部)	10/22	ポッチャ同好会、高洲スポーツセンター	(ボランティア)学生5名
	小学生を対象とした模擬選挙 (模擬市長選挙の立候補者役等)	9～11月	千葉市選挙管理委員会 千葉市立瑞穂小学校(9/20)、千葉市立高洲第四小学校(11/9)、 千葉市立菅田東小学校(11/28)	9/20・11/9は佐藤孔美ゼミが担当、11/28は学生公募、計12名。
	日本盲導犬協会×敬愛大学×そごう千葉店 秋の盲導犬もっと知ってキャンペーン	11/4	日本盲導犬協会、そごう千葉店	(ボランティア)学生8名
	フードバンクちば 食糧仕分けボランティア ★ちば産学官連携プラットフォーム協働事業	5・7・12・2・3月	フードバンクちば、 ちば産学官連携プラットフォーム	(ボランティア)学生3名
	第4回ポッチャ綱取り合戦	4/23	穴川コミュニティセンター避難所運営委員会、京葉美装、日本ソフトバラフェンシング協会	(ボランティア)学生5名
	第5回いなげポッチャカップ	2/18	稲毛区地域づくり支援課、ポッチャ同好会、千葉大学、千葉経済大学・短大	(ボランティア)学生9名
	大学等学生ボランティア・ボランティア担当職員 ・市町村社会福祉協議会担当職員情報交換会	3/7	千葉県社会福祉協議会 (講師、コーディネーター) 藤森センター長	(受講者)学生1名、職員1名
	千葉市こども若者市役所 ★ちば産学官連携プラットフォーム協働事業	通年	千葉市こども支援課、ちば産学官連携プラットフォーム	地域連携センター職員が運営支援に参加
教育連携事業	総合的探求の時間(1年) Inage Image 講師派遣協力	10～2月	敬愛学園高等学校	藤森センター長が 高校生1班5名に指導助言
	総合的探求の時間(1年) 指導助言、審査講評	11/27・12/4	千葉市教育委員会教育改革推進課、 千葉市立稲毛高等学校	(派遣)市川教授、金津教授、 星野准教授、藤森センター長
	オルガ室員による講演活動	通年	敬愛大学八日市場高校、佐原白楊高校、野田中央高校、日本赤十字社千葉県支部 計11件	受講者数 約2600名
産学官連携事業	ちば産学官連携プラットフォーム	通年	植草学園大・短大、神田外語大、淑徳大学、千葉敬愛短大、千葉経済大・短大、千葉明德短大、帝京平成大、東京情報大、放送大	
	ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム	通年	千葉市、千葉大学、千葉経済大学、企業・団体	(有志スタッフ)学生2名

【活動への紹介・助言を行った事業、学生を派遣した事業】

カテゴリー	事業名	時期	派遣先	備考
①教育支援ボランティア	とどろき食堂・とどろきカフェ	通年 毎月第4土曜	とどろき食堂・とどろきカフェ 運営有志	学生も任意参加中
	こどもカフェ 3rdプレイス虹	通年 毎週木曜午後	認定NPO法人コミュニティアゲネット	学生も任意参加中
②地域活性化ボランティア	小仲台親向会自治会 盆踊り大会	8/26	小仲台新向会自治会	大学からの参加なし 学園高校に出演依頼
	穴川商栄会感謝祭	5/4	穴川商栄会、穴川町会	(ボランティア)学生約50名
	穴川商栄会 感謝祭	5/4	穴川商栄会、稲毛区役所ほか	学生参加実績 81名 (敬愛短大生12名含む)
	穴川町会 盆踊り	7月下旬	穴川町会	(ボランティア)学生15名
	稲毛せんげん通りまつり	7/14・15	稲毛せんげん通りまつり実行委員会	(ボランティア)学生11名
	稲毛東5丁目 納涼盆踊り大会	7/29・30	稲毛東5丁目自治会	(ボランティア)学生1名
	第15回稲毛あかり祭「夜灯」	11/18・19	稲毛あかり祭夜灯実行委員会	個人申込、大学祭実行委員会も協力
	穴川コミュニティセンター避難所運営委員会 避難所開設・運営訓練	11/29	穴川コミュニティセンター避難所運営委員会	学生参加なし
	稲毛駅前月イチ清掃ボランティア	通年	いいね稲毛実行委員会	毎月第4土曜日実施
③災害復興支援ボランティア	災害ボランティア活動	有事の際	千葉県内ほか近隣被災地	今年度実績なし

【学生が自主的に活動している事業】

カテゴリー	事業名	時期	関係機関	備考
①教育支援ボランティア	教育ボランティア Iris	通年	千葉市美浜区役所、高浜ショッピングセンター、まちづくりスポット稲毛ほか	
	教育ボランティアサークル 放課後こども教室	通年	千葉市教育委員会生涯学習振興課、轟町小学校放課後こども教室	学生多数参加 ※10月以降活動休止
②地域活性化ボランティア	ボランティアサークル Love and Action	通年	※活動再開に向けて助言中	
④大学横断型ボランティア	ボランティアサークル ちばくりん敬愛支部 (ちーあいふれあいの庭)	通年	千葉市緑政課、千葉大学環境ISO委員会	

敬愛大学地域連携センター

年次報告書 2023年度(令和5年度)

2024年 5月 1日 発行

編集・発行 敬愛大学・敬愛短期大学 地域連携センター

〒263-8588 千葉県稲毛区穴川1-5-21

TEL 043-251-6364(直通)

FAX 043-284-2261(直通)

URL http://www.u-keiai.ac.jp/research/renkei_center/

MAIL crc@u-keiai.ac.jp



本冊子には、見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。